

長町・歩いて楽しい街並みづくり検討会
第1回 利活用ワーキンググループ会議録

- 1 日時 令和6年7月24日(水)18時30分～20時
- 2 会場 太白区役所4階 第2・第3会議室
- 3 出席者
委員：利大作委員、加藤隆委員、小島博仁委員、小林利一委員、佐藤秀彦委員、
鈴木有希子委員、堀内祥弘委員
※ 佐藤博委員、渡辺由之委員は欠席
オブザーバー：柿沼敏万氏
コーディネーター：氏家滉一氏
太白区（事務局）：長町地域活性化推進室長、長町地域活性化推進室 藤森主査、船水主査、
木皿主任
- 4 次第・資料
 - 1 開会
 - 2 座長挨拶
 - 3 ワーキンググループの位置付けについて【資料1】
 - 4 ワーキングの内容について
・現状と課題等【資料2】
・利活用ワーキングの進め方【資料3】【参考資料】
・R6 社会実験に向けて【資料4】
・ゾーン分けについて【資料5】
 - 5 意見交換
 - 6 閉会

1 開会

<名簿により出席者紹介>

2 座長挨拶

<堀内座長より挨拶>

3 ワーキンググループの位置付けについて

<事務局より資料1に基づき説明>

4 ワーキングの内容について

<事務局より資料2に基づき説明>
(質疑なし)

<事務局より資料3、参考資料に基づき説明>

堀内座長：

- 交通ワーキングでの議論とビジョンの振り返りを踏まえて、意見交換したい。

氏家氏：

- 交通ワーキングは、交通事業者や警察等により道路の再構成等が議題になるのに対し、利活用ワーキングでは、具体的な利活用方法を挙げていけるのかが、2つのワーキングのすみ分けとして大事なところだ。

- 交通ワーキングで具体的に交通について考えていくために、どのように歩いて楽しい街、商店街にしたいのか、どのように道路空間を活用していくのか、協議しなければならない。

佐藤委員：

- 自転車と人が行き交うところでかなり危険な状況もあつたりする。安全を確保しつつ、自転車の店への立ち寄りなど賑わい創出を図って、商店街がちゃんと成り立つようにしたい。

鈴木委員：

- 子育て、特に乳幼児を連れた親子がどのように街に受け入れられていくかというテーマを手掛けている。小さな子どもを2、3人連れている場合、現時点では自家用車が必須である。店先にちょっと駐車するスペースがあつたらもっと買い物しやすい。回遊するための駐車場・駐車スペースの確保ができればよい。

小島委員：

- 歩道の活用により、歩いて楽しいを生み、その中で交流が生まれていく心躍るようなワクワク感を作っていこうというのがこの街の将来像で、それが、ビジョンで目指す「心躍る触れ合いのまち」「賑わいと交流が生まれる人中心の街並み」ということだ。
- 課題解決の方向として、今の公共空間、行動空間が本当に足りるかということ、全く足りない。
- 歩道空間が狭い、あるいは自転車が歩道に乗り上げているから、安全面でも、楽しめるような空間になっていない。

小林委員：

- 他地域の方から長町はいいですねと言われるが、住んでいるといいのか悪いのかわからない。小中学生を含む消費者が何を欲しがっているかを意識し、ここに行けば何でも楽しくわいわいと買い物ができるとか休めるとか、そういう空間には人が集まる。

加藤委員：

- 歩道の使い方という部分で、座れる環境、居心地がいい環境が必要だ。
- 歩道へのベンチ設置は、ただ置けばいいわけではなく、何のために置くのか、その意味をどのようにとらえて、どこに設置するのかなど、検討していく必要がある。
- 商店街にお店が少ないのであれば、出店みたいものを出していこうとか、そのような歩道の使い方が、歩いて楽しいという雰囲気につながるとらえている。

利委員：

- 利活用ワーキンググループで考えていくことは、利活用可能な空間を創出しなければならないという共通認識の下、ビジョンを具体化すること。このエリアでの活動と、エリアを訪れる人が安心して過ごせるような場所、楽しめる場所を創出するということである。

佐藤委員：

- やはり、歩道は広げなければいけない。時間帯によっては自転車と人が行き交い、追い抜きもできない状況であり、そのような状況が続くと商店街の発展も考えづらい。集まりづらく通りづらいところにわざわざ買い物に行ったりはしない。

堀内座長：

- サンカトール商店街から一丁目商店街にかけて、歩道が本当に狭い。街路樹や配電盤があるところなど、人の行き来もできないし、自転車が来ると避けなければならない。

加藤委員：

- 自転車置き場もなく店先に停められないから、店にも寄れない。自転車が通ることで、くつろげ

る空間もできなくなってしまう。現状の歩道の広さのままでは解決できない。

利委員：

- 商店街エリアに賑わいを出していくためには、単に人気がある店があればいいということではなく、商店街エリアの中でどう過ごせる時間・場所があるのか。その場所で時間を過ごすことによって、交流が生まれるエリアが変わってくる。それが賑わいにつながる。

鈴木委員：

- こどもを連れて外出するとき、今は大型商業施設で1日を過ごしているが、長町の商店街の街中で、こどもも遊んで楽しんで快適に1日過ごせるようにしたい。
- 車線減少ができるのであれば夢の実現が進むと思う。

利委員：

- 人中心の道路空間の実現に向けた取組みが、全国的に大きな流れになってきている。車線を減少させて、人のために使っていくという方向性について、地域としても必要性があるのであれば、皆さんと一緒に考えていきたい。
- 現状の歩道では難しいということがポイントで、利活用に当たり、ほこみち制度を活用するには、今の歩道幅より広げる必要がある。

氏家氏：

- 議論が各論に寄り過ぎている。大きなところでは、危険だから自転車と歩行者を離すということは一貫しており、その上で何をしたいかが議論されるべきである。
- 今日の議論では、心地よい場所を作り、そこを起点ににぎわい作りやお店などの活用、という流れであるが、どのような街にしたいのかという総論に戻る必要がある。

小島委員：

- ここでの議論で重要なのは、にぎわいのために歩道を使うということである。そこで商店街の人たちと一緒に取り組むと、交流が生まれ、市民発意・地域発意のまちづくりができる。
- ビジョンに描かれているイメージイラストの夢を実現することで、地域のコミュニティが生まれてくるとよい。

<事務局より資料4、資料5に基づき説明>

堀内座長：

- 社会実験並びにゾーンについて説明があった。特にゾーン分けについて、3つに分ける案が示されたが、委員それぞれの立場から考え方について伺いたい。

加藤委員：

- 一丁目ゾーンはまだ建物が残っており、空き店舗の利活用ができる。三丁目ゾーンは、駐車場や空き地など空間が広がっている。駅前には店が多く賑わっている。それぞれ魅力があるので3つのゾーンに分け、一丁目と駅前が核、三丁目が憩いの空間になっていくなど議論する上で特徴があってよい。

小島委員：

- まちづくりは地域住民や商店街の方々のため行うものであることから、地域の意識や日頃の思いとずれないほうがよい。今ある長町駅前商店街、サンカトール商店街、長町一丁目商店街に沿ったゾーン分けがいいと思う。

小林委員：

- このゾーン分けは特徴がありよい。周りから見て、何かある、面白いという印象で、インパクトもあ

る。

佐藤委員：

- この3ゾーンでちょうどいい空間づくりに結びつけられる。

鈴木委員：

- 長い町であることを生かすことを考えると、ゾーンに分ける必要があるかは疑問である。もうすでに商店街が分かれている。
- この長い空間だからこそできることがあると思うので、ゾーン分けについて議論をするよりも、三位一体で何か長町らしいことを考えた方が新しいアイデアが生まれて楽しいのではないか。

利委員：

- 一体になって考えていくことに異論はないが、エリア全体でやった方が効果的なのか、3つのゾーン分けでそれぞれの特徴を出しながら、同じ方向性を向いて相乗効果を出していく方が効果的なのかというのは、方法論として議論すべき。
- エリアの現状や、これまでの歴史を見たときに、この1キロの区間をすべて同じような形で賑わいを出していくというよりは、それぞれが特徴を出しながら、お互いに効果を与え合うような形がよいのではないか。

氏家氏：

- 定禅寺通の取組みでは、晩翠通りの東と西で分けた時にブランディングや方向性が見えてきて、一気に検討が進んだという印象がある。
- 長町も、歩く人にとってまちの表情がどんどん変わって行って、気が付いたら1キロ歩いていたという方がいいのではないか。

堀内座長：

- 社会実験については、いかがか。

小島委員：

- どのような魅力あるコンテンツがあり、将来的に何を作っていこうとするかというものがないと、社会実験をする意味や目的が見えてこない。利活用ワーキングとして、例えば歩道を広げてそこで何をするかという、具体的なものをイメージしないといけない。

加藤委員：

- せっかくゾーンを3つで分けるのであれば、その3つの特色がどのようなものなのかをしっかりと落とし込んだ形の社会実験ができればよい。

堀内座長：

- 本日出たご意見を踏まえ、今後の議論につなげていきたい。議事は以上だが、この際、皆様からその他ご発言はあるか。

小島委員：

- 社会実験とは、将来あったらいいということの実現のために試しにやってみることであり、現行の制度が想定していないことをしなければならぬこともある。行政には、これは今できないとは言わないでほしい。社会実験であれば、制度の枠組みを超えてやることも1つの意味だろう。

利委員：

- 地域の方々がやりたいことを最大限できるよう、行政がどのように環境を整えていくのかということが重要と認識している。

堀内座長：

- ハードは行政で整備するが、ソフトはやはり地域、特に商店街がやっていかないと活力が生まれないと思っている。

鈴木委員：

- 歩道を拡張することで、多様な主体が、やりたいと思ったことを長町で実現できるとよい。

6 閉 会

(20 時終了)